

平成30年度事務事業評価シート(29年度実績)

◎基本情報

事務事業名		各種学級(女性・成人・高齢者学級)開設事業		担当部署	教育委員会 生涯学習人權課		
総合計画体系				根拠法令 計画など	社会教育法		
基本政策(大項目)	2	ずっと笑顔で生きがいを感じるまちづくり		事業 期間	開始	昭和	36年度
政策(中項目)	4	生きがいあふれるまち なんと				終期	未定
(小項目)		生涯学習					
施策	1	生涯学習の推進					
基本事業	1	学習活動の推進					

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 学習意欲のある市民						
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	女性学級・成人学級・高齢者学級および公民館短期講座を開設することにより、市民の多様な学習ニーズに応え、自主的な学習を通じて市民が豊かな心を育み、生きがいを感じながら健康的に過ごすことができる環境を作る。						
事業計画	29年度に何を計画していたか	1. 女性学級・成人学級・高齢者学級については、社会教育指導員や公民館長のコーディネートのもと、学級長を中心に円滑な学級運営を行うとともに、適宜、社会教育指導員が助言・サポートを行うことで学習内容の充実を図り、市民の生きがいづくりの一助となる学級開設に努める。 2. 公民館短期講座については、市民の興味関心の高い分野に焦点を当てたテーマ学習を引き続き取り入れることにより、多様な学習ニーズに合った学習機会の提供に努める。 3. 受講生を対象としたアンケート調査を実施し、学習満足度・ニーズ等の把握に努める。						
成果目標	事業目標の達成度割合	指標名	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	単位
		学級学習の内容を有意義と思った割合	93.0	93.0	93.0	94.0	94.0	%

◎実施結果(DO)

事業実施内容	29年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	1. 女性学級9、成人学級3、高齢者学級8の計20学級を公民館や集会所などで開設し、社会教育指導員や公民館長のコーディネートにより学級長を中心に自主的な学級運営を行った。社会教育指導員は、各学級に対し、講師の紹介や学習機器の貸し出し等を行い、学習内容の充実に努めた。 2. 公民館短期講座では、子育て世代の女性を対象としたライフスタイル講座と鳴門市における歴史文化を「徳島県祭り・行事調査」、「阿波学会総合学術調査」の調査研究成果から学ぶ歴史文化講座を開設した。 3. 学習満足度・ニーズ等をアンケートにより把握し、学級長や公民館長に結果を還元した。						
事業実施手法		<input checked="" type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他						
指標名		28年度実績	29年度実績	30年度目標	31年度目標	32年度目標	単位	
活動指標 実施した事業の活動量を示す指標	1	学級開設数	23	22	22	23	23	学級
	2	学級参加延人数	3,306	3,302	3,500	3,500	3,500	人
成果指標 対象にどのような効果があつたかを示す指標	学級学習の内容を有意義と思った割合		92.7	98.3	—	—	—	%
	目標達成率(実績/目標)			105.7	—	—	—	%
今年度の進捗状況	計画どおり	事業全体の進捗状況			ほぼ計画どおり			

(千円)

財源内訳	平成29年度	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
		当初予算額	0	0	0	0	483	483	
		補正予算額	0	0	0	0	0	0	
		繰越予算額	0	0	0	0	0	0	
		全体予算額	0	0	0	0	483	483	
		決算額	0	0	0	0	383	383	
		繰越額	0	0	0	0	0	0	
	人件費	正規職員(7,234千円/人)	臨時職員(2,492千円/人)	総人件費		総事業費			
	0.1	1.0	3,215	3,598					

【鳴門市行政評価】

【事務事業名:各種学級(女性・成人・高齢者学級)開設事業】

事業費推移	年度	28年度決算	29年度決算	30年度	31年度	32年度
	事業費	451	383	473	473	473
	うち一般財源	451	383	473	473	473
	人件費	2,756	3,215	3,215	3,215	3,215
	総事業費	3,207	3,598	3,688	3,688	3,688

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値		所見欄
①活動に対する評価	有効性	A:有効性があった		各種学級を開設することによって、様々な世代の市民の多様なニーズに対応した学習機会を提供している。
	効率性	B:概ね効率的だった		公民館短期講座において、新規受講者を一定数獲得しているが、女性・成人・高齢者学級においては、受講者の高齢化や固定化の傾向が見られる。
②成果に対する評価	指標名	学級学習の内容を有意義と思った割合		学級・講座終了時に受講者を対象に実施したアンケート調査においては、学習内容について「大変よかった」「よかった」と回答したものの割合が成果指標を上回っており、高い満足度を得ている。
	目標	93.0	%	
	実績	98.3	%	
	評価	A:目標を達成できた		
③総合的な評価		B		各種学級の学習に参加した市民からは高い満足度を得られているが、学習者の固定化・高齢化により学級数・学級参加延べ人数が伸び悩んでいる。

◎今後の方向性(ACTION)

課題	1. 各種学級の運営については、社会教育指導員の助言・サポートが必要不可欠であり、事業の安定した継続には社会教育指導員の資質によるところが大きい。引き続き、社会教育指導員の人材確保、資質向上が必要である。 2. 学習内容のマンネリ化を防ぐため、受講者のニーズに応えた多様な学習内容を積極的に取り入れることが必要である。 3. 各種学級の開設は、特定の熱意ある学級長に依存する傾向があり、新たなリーダーの育成が必要である。 4. 新たな受講生を増やすために、講座の構成や内容、周知広報の方法の検討を行う必要がある。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	4
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	H30年度	各種学級の講座構成や内容について検討を行い、受講生のニーズに沿った講座の開設を計画する。また、新たな受講生の参加が期待できる講座の開設を維持するとともに、周知広報の方法についてもより多くの市民の関心を引くことができるよう工夫に努める。			
	H31年度	各種学級の講座の構成や内容について見直しをおこない、様々なニーズに対応できる講座の開設を検討する。			